

足羽川ダム ニュースレター

安全でゆたかな
うるおいのある
くらしをめざして

話題

世界のダム論議と足羽川ダム

ダムは、効率的な洪水調節、クリーンな発電、安定した水の提供といった利点がある一方で、植物、動物といった環境へ与える影響、さらに、その地域の人々の生活への影響も深刻な課題となります。

そのような影響を背景にしてダムに関する賛否の議論は我が国だけでなく、世界各国でも行われております。

本年三月に京都、滋賀、大阪で行われた第三回世界水フォーラムにおいて、「ダムと開発」がこのテーマとなっていました。このテーマの下で様々な課題について、賛否両論の議論を戦わせておりましたが、我が国のダムに関する一般的論調と少し異なる印象を感じます。

というのは、ダムそのものを否定する意見よりも、ダムによる自然環境への影響はどうか、建設までの合意形成プロセスはどうかと、科学的にあらゆる代替案を評価した上で是非を個別に議論すべきであると



第3回世界フォーラム
(写真提供: Ms.Leila Mead/IISD)

という意見が大勢のようです。

英語に「ファクトイド」という造語があります。事実と異なることでも繰り返し聞く事により、事実であるという錯覚を起してしまう現象のことで米政府の方から広報の説明の中で教わりました。

足羽川ダム事業を考える際にも、一部の人の声に流されるのではなく、しっかりとその目的、効果、各種対策による影響の軽減等を皆様で考えていただくことが重要です。

足羽川ダムの情報はホームページに掲載しておりますし、今後の九頭竜川流域委員会においても議論が展開されます。皆様の次世代、次の次の世代の安全で安心した生活を提供するために、多くの方に関心を持って頂きたいと思っております。

(足羽川ダム工事事務所)

報告

九頭竜川流域委員会

平成十四年五月九日の第二回九頭竜川流域委員会の設立からこれまでに十五回の委員会が開催され、九頭竜川水系の河川整備に関する審議をしてきました。具体的には初めに、流域内における過去の洪水被害の実績や、河川水の利用状況、また、河川に生息する生物の状況といった、治水、利水、環境の現状や課題について検討してきました。現在は、これらの現状や課題を踏まえ、どの程度の降雨に対して氾濫しない河川



第15回九頭竜川流域委員会

整備を目指すか、また、その手法としてダムや河道拡幅等、どの対策を選定するかについて、審議を進めている状況です。今後はこれらの審議事項を反映した「河川整備計画原案」の作成を予定しております。

委員会は、原則として公開で傍聴もできます。開催状況や議事内容等につきましては、「九頭竜川流域委員会ニュース」を毎時発行しておりますので、近畿地方整備局や福井県および関係出先機関でご覧下さい。また、インターネットの左記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.fukui-moc.go.jp/>

nyuiki/index.html

お知らせ

第十六回流域委員会が10月22日に福井県国際交流会館で12時から行われます。

(福井県土木部河川課)

シリーズ 九頭竜川水系のダム

このコーナーでは九頭竜川水系にあるダムについてシリーズで紹介していきます。

福井県が管理しているダムは、完成順に笹生川ダム、広野ダム、龍ヶ鼻ダム、永平寺ダムの四ダムがあり、国土交通省が管理しているダムは、九頭竜ダム、真名川ダムの二ダムがあります。

また、福井県が事業中のダムとして、河内川ダム、浄土寺川ダム、吉野瀬川ダム、榎谷ダム、大津呂ダムの五ダムがあり、国土交通省事業中のダムとして、九頭竜川鳴鹿大堰、足羽川ダムがあります。

次回からは、ダム個別毎に詳しく紹介していきます。

Q&A DAMSの寿命は?

ダムの寿命については、本体コンクリートの耐久性や貯水池の堆砂等、様々な要素で決まるもので、よく二〇〇年といわれますが、実際、我が国の古いダムを見ると、大阪の狭山池が我が国最古のフィルタイプダム（土砂で造ったダム）で七世紀前半に造られたとされています。香川県にある満濃池も弘法大師が改修したダムとして有名です。

コンクリートダムでは、神戸市の布引ダムで二〇〇年に造られたのが最古とされています。これらのダムは適切な管理の下で、現在も利用されているのが現状です。

発行者より

皆様に喜ばれる事業を目指して



近畿地方整備局
足羽川ダム工事事務所
事務所長 岡積 敏雄

足羽川ダム事業は、ダム事業審議委員会、九頭竜川流域委員会の審議などを経て、予備調査着手から数えて今年で二六年が経過します。残念ながら、かなり長期となっておりますが、多くの方の理解と納得の上で事業を実施する事が社会の要請と考え、必要な手順を踏んで二日でも早く計画が、まるとなるよう努力しております。

さて、当事務所も前回のニューズレター発行から一部職員が替わり二層フレッシュな顔ぶれで皆様に喜ばれる事業となるよう四課及び連絡室の全三三名で日夜勤務に励んでおります。このニューズレターとホームページで最新情報などを提供しますので、ますます、ご注目、ご支援頂ければ幸いです。

より一層の理解・ご支援を



福井県土木部河川課
ダム建設・足羽川ダム対策室
室長 中村 純一

今年は、梅雨明け後も雨の日が多く、夏の日照時間も福井地方気象台の観測開始以来最小のことでした。長雨にもかかわらず、県内では大水害もなく安心しているところ です。

さて、足羽川ダム建設事業は、県都福井市をはじめ流域に住む人々の生命を守り、財産に対する洪水被害を軽減するとともに、かんがい用水等の安定取水や河川環境保全など、県政上極めて重要な事業であります。今後は、流域の皆様方のご意見を反映し河川整備計画策定に向け努力してまいりますので、皆様の二層のご理解と絶大なご支援を心からお願い申し上げます。

地域連携の事業の推進

水辺の楽校プロジェクト

水辺の楽校プロジェクトとは、「子供達と水辺の遊びを支える地域連携体制の構築」です。

NPO、ボランティア団体等、地域の方々と協力しながら、水辺が自然体験の場、遊びの場として活用されるような仕組みをつくりまします。

福井市狐川では、平成十二年度からモデル区間（運動公園前の延長三〇〇m）を設定してきました。狐川の本来の生態系の再生をめざして住民、小中学生、行政、生物専門家協力（ワークショップを七回開催）しながら取り組んできました。

その結果、ミソソバ、イヌヒエ、マコモなどの狐川本来の植物がもどってきています。今年度中に、選定基準をみたす二級河川（狐川）下流域、流路延長五・〇km区間を国土交通省河川局長あて登録申請（福井県經由）をする予定です。

（福井市建設部河川課）

【共同発行人】 ◎ご意見、ご感想等、みなさんの声をお寄せ下さい。今後アンケート等も予定しております。

国土交通省近畿地方整備局
足羽川ダム工事事務所
〒918-8239
福井市成和1-2111 ポラリスビル
TEL(0776)27-0642代 FAX(0776)27-0643
<http://www.kkr.mlit.go.jp/asuwa/index.html>

福井県土木部河川課
ダム建設・足羽川ダム対策室
〒910-8580
福井市大手3-17-1 県庁
TEL(0776)20-0486 FAX(0776)20-0696
<http://info.pref.fukui.jp/kasen/index.html>

福井市建設部河川課
〒910-8511
福井市大手3-10-1 市役所
TEL(0776)20-5492 FAX(0776)20-5745
<http://www.city.fukui.fukui.jp/siyakusy/kasen/>